

ノーコード/ローコードやAIエージェントでユーザ企業とIT企業が抱える課題の相違点と共通点

調査設計/分析/執筆: 岩上由高

ノークリサーチ (本社〒160-0022東京都新宿区新宿2-13-10武蔵野ビル5階23号室 代表: 伊嶋謙二 TEL: 03-5361-7880 URL: www.norkresearch.co.jp) は有効回答件数1300社を対象に中堅・中小市場におけるノーコード/ローコードやAIエージェントの活用においてユーザ企業とIT企業が共通して抱える課題を分析し、その結果を発表した。本リリースは「2025年版 中堅・中小企業のITアプリ開発ツール利用実態と展望レポート」のサンプル/ダイジェストである。

<ユーザ企業とIT企業の間には存在する「課題認識のズレ」や「共通する課題」を把握することが大切>

- 「RPAやノーコードを補う」という視点では、ローコード開発ツールの訴求は上手く行かない
- IT企業は「ツールの浸透」「業務フロー把握」を課題と考えるが、ユーザ側の認識は異なる
- AIエージェント活用においてユーザ企業とIT企業に共通する最大の課題は「データの整備」

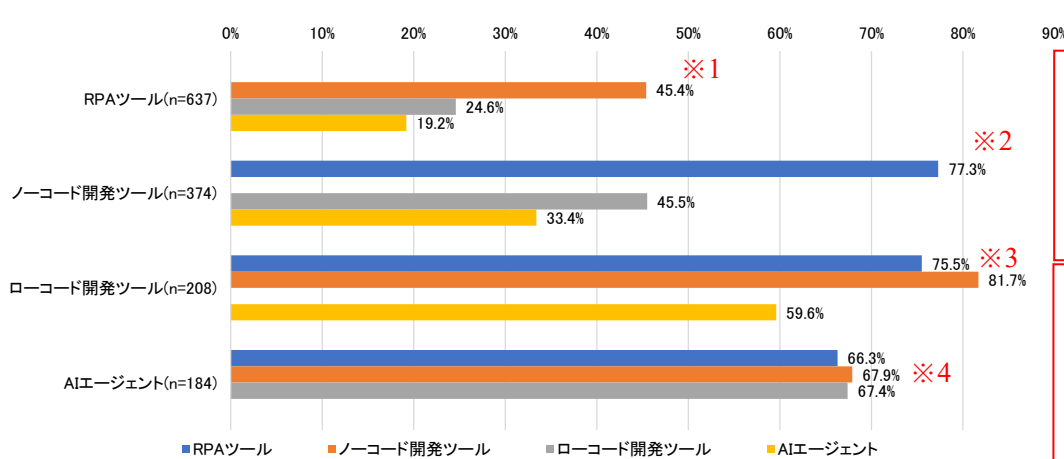
調査時期: 2025年7月～8月
 対象企業: 日本全国、全業種の年商500億円未満の中堅・中小企業1300社(有効回答件数、1社1レコード)
 対象職責: 情報システムの導入や運用/管理または製品/サービスの選定/決裁の権限を有する職責
 詳細については本リリースの4ページを参照

「RPAやノーコードを補う」という視点では、ローコード開発ツールの訴求は上手く行かない

従来型の業務アプリケーション(会計、販売、人事給与、グループウェア、文書管理)の範疇に収まらない業務を効率化/自動化する手段としてはノーコード/ローコード、AIエージェント、RPAといった様々な手段がある。IT企業はこうしたITアプリ開発ツールを適材適所で提案することが大切だ。本リリースの元となる「2025年版 中堅・中小企業のITアプリ開発ツール利用実態と展望レポート」では「ノーコードを導入しているユーザ企業ではローコードの導入割合も高いのか?」、「ユーザ企業とIT企業の双方が共通して抱えるツール活用の課題とは何か?」などを分析し、IT企業が取るべき施策を提言している。

以下のグラフは調査レポートの中から、導入済み割合の複数ツール間における相関を中堅・中小企業全体で集計したものだ。

FIS.導入済み/適用済みのITアプリ開発ツール(全用途)(複数回答可):中堅・中小企業全体



ここでは中堅・中小企業全体の集計結果を掲載しているが調査レポートには小規模企業、中小企業、中堅企業の年商別集計結果も収録されている

ここでは「導入済み」の集計結果を掲載しているが、調査レポートでは「導入予定」についても同様の集計/分析を行っている

出典: 2025年版 中堅・中小企業のITアプリ開発ツール利用実態と展望レポート (ノークリサーチ)

※1の橙帯と※2の青帯が示すように、RPAとノーコードはどちらか一方が導入済みであれば、他方も導入済みの割合が高くなりやすいことがわかる。一方、※3の橙帯と青帯が示すようにローコードを導入済みの場合はRPAやノーコードの導入割合も高いが、その逆は成立しない。そのため、IT企業がローコード活用を訴求する際にはRPAやノーコードで対応できない領域をカバーするという視点ではなく、従来のプログラミング手法との比較などの観点からのアプローチが有効と考えられる。また、※4の青帯/橙帯/灰帯が示すようにAIエージェント導入済みのユーザ企業はRPA、ノーコード/ローコードのいずれの導入割合も高い。つまり、AIエージェントを導入済みのユーザ企業は幅広いITアプリ開発ツールを既に導入している意欲的な企業層ということになる。次頁ではITアプリ開発ツール活用においてユーザ企業とIT企業が抱える課題について述べていく。

IT企業は「ツールの浸透」「業務フロー把握」を課題と考えるが、ユーザ側の認識は異なる

本リリースの元となる調査レポートでは、ノーコード/ローコード、AIエージェント、RPAといったITアプリ開発ツール活用においてユーザ企業とIT企業のそれぞれが直面する課題を以下のような様々な選択肢を列挙して尋ねている。「NLD」はno-code/low-code development toolsの略)

ユーザ企業の課題

F6.ITアプリ開発ツールを活用する際の課題(複数回答可)

<<自社の業務や体制に関連する課題>>

- ・ヒトが判断/実行した方が安全かつ効率的な業務もある
- ・ツール活用に必要なITスキルを持つ社内人材がない
- ・導入しても現場における活用が浸透/普及していかない
- ・業務フローが属人化しており、実態を把握できていない
- ・業務や部門でデータ書式が異なり、統一されていない
- ・ツールを活用すべき業務場面を選択/判断できない

<<ツールを用いたシステム開発に関する課題>>

- ・ツールを活用したシステム内製の実現方法が分からない
- ・ツール活用で得られた効果を測定/実証する方法がない
- ・ツールを活用すると、スクラッチ開発と比べて処理が遅い

<<ツールの管理/運用に関する課題>>

- ・業務仕様が変わる度に設定/変更の作業が必要になる
- ・システムが変わる度に設定/変更の作業が必要になる
- ・知らない間にデータや個人情報が出す恐れがある
- ・意図しない処理が勝手に実行されてしまう恐れがある
- ・トラブル/エラー発生時の原因特定や修正が難しい

<<ツールの価格に関する課題>>

- ・ツールの価格が高額であり、費用対効果が見込めない
- ・無償の簡易ツールは便利だが、利用には不安がある

<<AIエージェントに関連の深い課題>>

- ・自社の業態/業務に応じてAIを最適化する必要がある
- ・AIに学習させるデータが足りず、処理が不正確になる
- ・AIの導き出した結果の根拠を説明することができない

<<NLDツールに関連の深い課題>>

- ・ツールを用いた開発では画面や機能の制限事項が多い
- ・仕様や経緯が不明な自作アプリが社内に散在してしまう

<<RPAツールに関連の深い課題>>

- ・業務システム自体を改善した方がRPAよりも安価で確実
- ・ヒトの操作を記録して反復実行する自動化はエラーが多い

IT企業の課題

F9.IT企業としてITアプリ開発ツールを活用する際の課題(複数回答可)

<<ユーザ企業の体制や業務に起因する課題>>

- ・ツールを導入しても、ユーザ側での利用が活性化しない
- ・ユーザ企業の業務フローを把握/整理することが難しい
- ・ユーザ企業のシステム内製を支援する方法が分からない

<<ツールが自社ビジネスに与える影響>>

- ・ツールを基盤とした開発は自社の自由度を損なうリスクがある
- ・顧客のシステムの機能仕様をツールベンダに掌握される
- ・顧客のシステムのデータをツールベンダに掌握される

<<ツールの導入や活用に関する課題>>

- ・ツール活用の効果を測定/実証して示す方法が分からない
- ・ツールを活用すると、顧客から低価格/短納期を求められる
- ・ツール適用場面とヒトの手作業を残す場面の判別が難しい
- ・ツールを一本化すべきか、複数を併用すべきか判断できない
- ・AI学習など、ツール活用には多くのITリソースを必要とする

<<ツールの管理/運用に関する課題>>

- ・ツールによる処理を監視するには別途ツールが必要になる
- ・ツール活用に伴うセキュリティ面の対策が別途必要になる
- ・トラブル/エラーの予防策や発生時の対処法が分からない

<<ツールの仕様や価格に関連する課題>>

- ・ツールの初期費用や運用費用が導入障壁となりやすい
- ・ツールの仕様や価格が突然変わってしまう可能性がある

<<AIエージェントに関連の深い課題>>

- ・業種や業態に応じて最適なAIモデルを選ぶことが難しい
- ・ユーザ企業のデータだけではAIが十分に学習できない
- ・AIの導出結果をユーザ企業に分かり易く説明できない

<<NLDツールに関連の深い課題>>

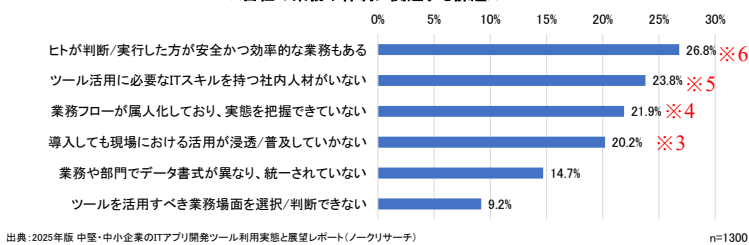
- ・NLDツールは制限が多く、結局コーディングが必要になる
- ・ノーコードとローコードを混同しているユーザ企業が多い

<<RPAツールに関連の深い課題>>

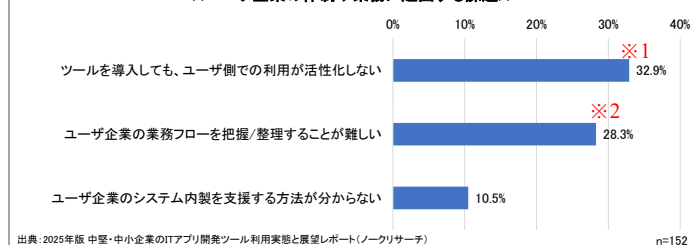
- ・RPAの適用場面を選択/判断できないユーザ企業が多い
- ・RPAの導入コンサルを不要と考えるユーザ企業が多い

以下の2つのグラフはユーザ企業が考える自身の業務/体制に関わるツール活用の課題(左側)とIT企業が考えるユーザ企業の業務/体制に関わるツール活用の課題(右側)を比較したものだ。IT企業側では「ユーザ側での利用が活性化しない」(※1)、「業務フローを把握/整理できない」(※2)の値が相対的に高いが、ユーザ企業側では※1に該当する※3、※2に該当する※4の課題よりも、「ヒトが判断/実行した方が良い業務もある」(※6)や「必要なITスキルを持つ社内人材がない」(※5)がさらに高い値を示している。したがって、IT企業がITアプリ開発ツールを訴求する際は無理に全てをシステム化しようとせず、ユーザ企業内のIT人材育成も並行して支援していくことが大切だ。

F6.ITアプリ開発ツールを活用する際の課題(複数回答可)
<<自社の業務や体制に関連する課題>>



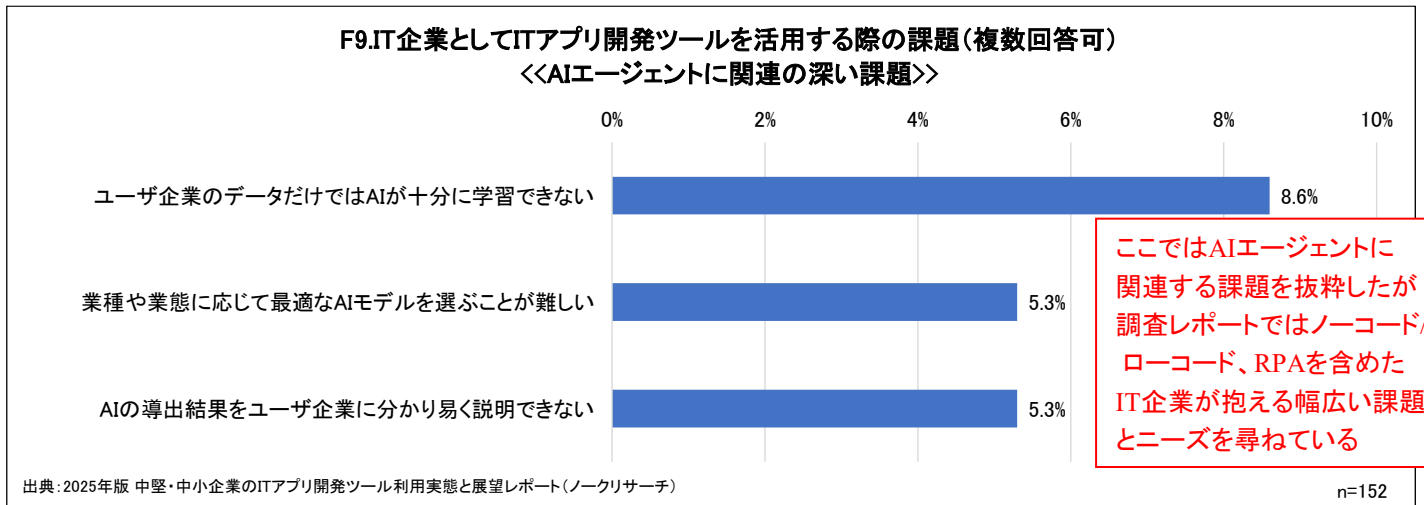
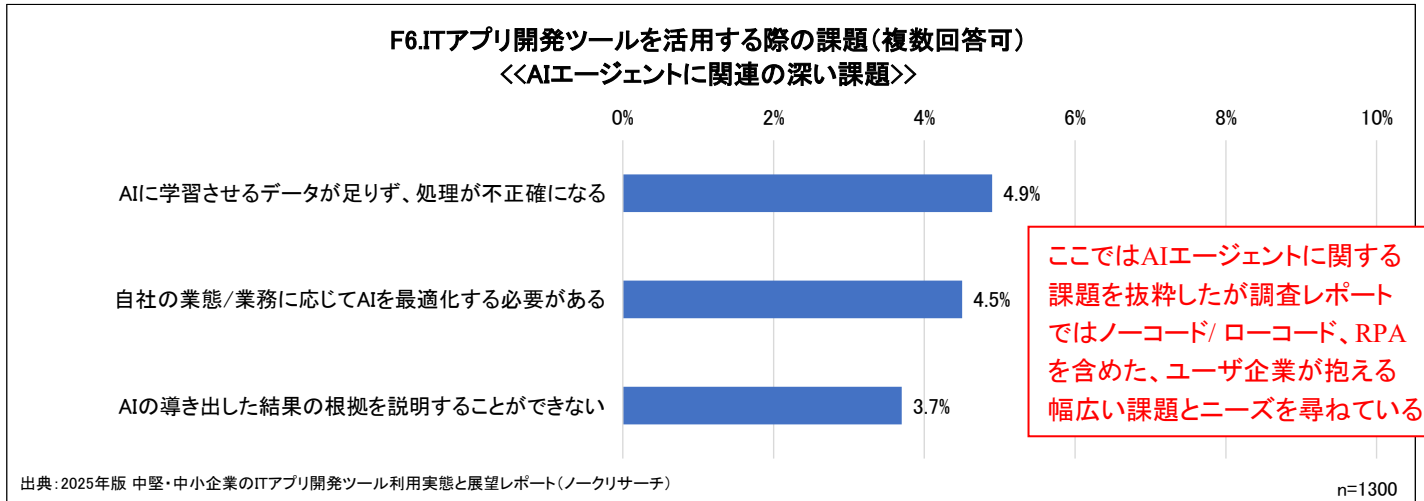
F9.IT企業としてITアプリ開発ツールを活用する際の課題(複数回答可)
<<ユーザ企業の体制や業務に起因する課題>>



次頁ではAIエージェント活用においてユーザ企業とIT企業が抱える課題について述べていく。

AIエージェント活用においてユーザ企業とIT企業に共通する最大の課題は「データの整備」

ノーコード/ローコードやRPAと比較すると、AIエージェントを十分に理解・認知しているユーザ企業やIT企業の割合はそれほど高くない。そのため、以下のグラフが示すようにAIエージェント活用の課題を尋ねた結果（上段：ユーザ企業、下段：IT企業）の回答割合の数值はいずれも1割未満に留まっている。だが、その結果には注目すべきポイントも見られる。



上記2つのグラフを見ると、ユーザ企業側（上段）とIT企業側（下段）のいずれも「AIに学習させるためのデータが不足している」という課題の回答割合が最も高くなっていることがわかる。AIエージェントの市場動向ではMCP/A2Aなどによる連携の標準化や「SaaS is Dead」（AIエージェントによって、UIを持つ個々のSaaSが不要になる）といった議論に注目が集まりやすい。これらも重要な観点だが、ユーザ企業がAIエージェントの利点を楽しむには、まず業務上の様々なデータを元にAIが適切な処理や判断を実行できなければならない。AIエージェントはまだ黎明期にあるが、ユーザ企業とIT企業のいずれも「データの重要性」に既に気が付いていることを上記のグラフは示唆している。つまり「SaaS is Dead」の心配をする前に、まず「Data is not Ready」の課題を解決する必要がある。IT企業としては、ユーザ企業が所有/利用する様々なデータの整備に今から着手しておくことが重要だ。

本リリースの冒頭ではITアプリ開発ツール（ノーコード/ローコード、AIエージェント、RPA）の導入済み割合の相関を示したが、出典元となる調査レポートでは各種のITアプリ開発ツールの導入済みおよび導入予定の割合を年商、業種、従業員数などの様々な属性別に集計したデータが収録されている。また、ITアプリ開発ツール活用においてユーザ企業が抱える課題/ニーズについても、導入済みと導入予定のそれぞれについて小規模企業/中小企業/中堅企業の年商規模別に集計した結果を収録している。

次頁では、本リリースの元となる調査レポートの概要を掲載している。

本リリースの元となる調査レポート

『2025年版 中堅・中小企業のITアプリ開発ツール利用実態と展望レポート』

中堅・中小のユーザ企業を対象とした有効回答1300社の調査を実施し、RPA、ノーコード/ローコード開発ツール、AIエージェントの導入済み/導入予定の状況を年商別および10分野の業務アプリケーション分野毎に集計/分析、さらにユーザ企業とIT企業の双方におけるツール活用の課題やニーズも網羅。

【対象企業属性】(有効回答件数:1300社、調査実施期間:2025年7月～8月)

年商:	5億円未満 / 5億円以上～10億円未満 / 10億円以上～20億円未満 / 20億円以上～50億円未満 / 50億円以上～100億円未満 / 100億円以上～300億円未満 / 300億円以上～500億円未満
従業員数:	10人未満 / 10人以上～20人未満 / 20人以上～50人未満 / 50人以上～100人未満 / 100人以上～300人未満 / 300人以上～500人未満 / 500人以上～1,000人未満 / 1,000人以上～3,000人未満 / 3,000人以上～5,000人未満 / 5,000人以上
業種:	組立製造業 / 加工製造業 / 建設業 / 卸売業 / 小売業 / 流通業(運輸業) / IT関連サービス業 / 一般サービス業 / その他:
地域:	北海道地方 / 東北地方 / 関東地方 / 北陸地方 / 中部地方 / 近畿地方 / 中国地方 / 四国地方 / 九州・沖縄地方
その他の属性:	「IT管理/運用の人員規模」(12区分)、「ビジネス拠点の状況」(5区分)、「IT活用に関わる職責」(2区分)

【分析サマリ(調査結果の重要ポイントを述べたPDFドキュメント)の概要】

第1章: RPA、ノーコード/ローコード開発ツール、AIエージェントの導入済み割合

中堅・中小企業におけるRPA、ノーコード開発ツール、ローコード開発ツール、AIエージェントの導入済み割合を年商別や適用対象となる10分野の業務アプリケーション毎に集計/分析

第2章: RPA、ノーコード/ローコード開発ツール、AIエージェントの導入予定割合

中堅・中小企業におけるRPA、ノーコード開発ツール、ローコード開発ツール、AIエージェントの今後の導入予定を年商別や適用対象となる10分野の業務アプリケーション毎に集計/分析

第3章: RPA、ノーコード/ローコード開発ツール、AIエージェントの導入済み/導入予定の社数シェア

RPA、ノーコード開発ツール、ローコード開発ツール、AIエージェントの4つの区分について、導入済み/導入予定の社数シェアを年商別に集計

第4章: ユーザ企業から見たRPA、ノーコード/ローコード開発ツール、AIエージェントを活用する際の課題とニーズ

ユーザ企業がRPA、ノーコード開発ツール、ローコード開発ツール、AIエージェントを活用する際に顕著に見られる課題やニーズを集計/分析

第5章: IT企業から見たRPA、ノーコード/ローコード開発ツール、AIエージェントを活用する際の課題とニーズ

IT企業自身がRPA、ノーコード開発ツール、ローコード開発ツール、AIエージェントを活用する際に顕著に見られる課題やニーズを集計/分析

第6章: RPA、ノーコード/ローコード開発ツール、AIエージェントの導入費用

RPA、ノーコード開発ツール、ローコード開発ツール、AIエージェントを導入済み/導入予定のユーザ企業がITアプリ開発ツールに対して抛出可能な費用を尋ねた結果を集計/分析

【発刊日】2026年3月30日 【価格】225,000円(税別)

【調査レポート案内】https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2025DevTool_rep.pdf

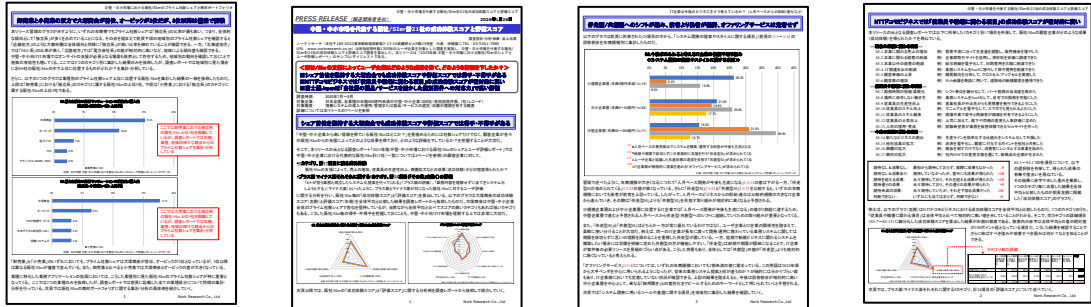
次頁では、既刊の調査レポートや市場調査データを活用した各種の関連サービスをご紹介します

ご好評いただいている既刊の調査レポート(1/2):

2025年版 中堅・中小市場における販社/SIerのシェアとユーザ評価レポート

中堅・中小市場で注目すべき販社/SIerの導入社数シェア(年商別/業種別/地域別)、商材ポートフォリオ、顧客企業が得た成功体験、顧客企業から見たプラス/マイナス評価を集計/分析、さらにAI活用、ユーザ内製、伴走型SI/共創型SIへのシフトなどに関するIT企業側の実態と考え方も網羅。

【レポート案内】 https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2025SIer_user_rep.pdf



2025年版 中堅・中小企業のIT支出と業務システム購入先の実態レポート

中堅・中小企業は「どんなIT商材/ソリューションをどのIT企業から導入するのか?」「それで得られた成功体験(売上増、従業員の生産性向上など)は何か?」「委託先/購入先のIT企業に関する満足点や不満点は何か?」を集計/分析し、今後有望なIT商材/ソリューションやユーザ企業セグメント(年商や業種)を提言

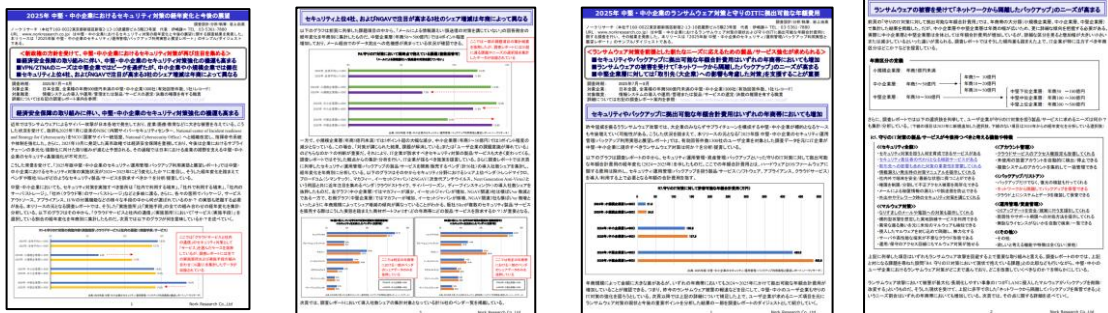
【レポート案内】 https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2025SP_user_rep.pdf



2025年版 中堅・中小企業のセキュリティ/運用管理/バックアップ利用実態と展望レポート

ランサムウェア対策や経済安全保障の取り組みが急務となる中、2024~2025年の経年変化に基づいて導入社数シェア、実施状況、課題、ニーズを集計/分析。

【レポート案内】 https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2025Sec_user_rep.pdf

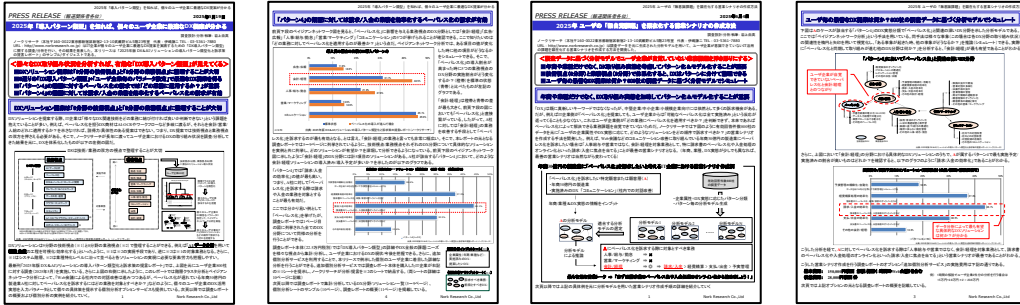


ご好評いただいている既刊の調査レポート(2/2):

2025年版 DX&AIソリューションの導入パターン類型化と訴求策の提言レポート

DXソリューションを技術視点(9分野/48項目)&業務視点(8分野/38項目)に基づく導入パターン類型に整理し、個別分析サービス(オプション)による個々のユーザ企業向けDX提案の施策/提言までカバーした次世代型の調査レポート。生成AIのサービスシェア、適用場面、ユーザ企業の課題/ニーズ、導入費用も網羅。

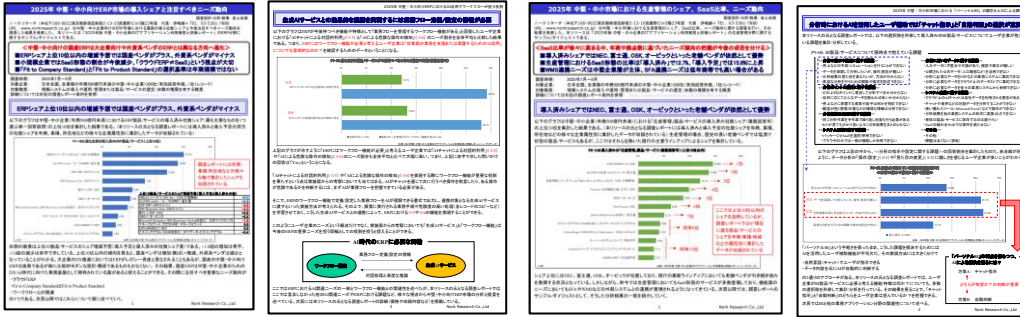
【レポート案内】 https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2025DXAI_user_rep.pdf



2025年版 中堅・中小企業のITアプリケーション利用実態と評価レポート

ERP、会計、販売、人事給与、グループウェア、CRM、BIなど計10分野に渡る業務アプリケーションの導入済み/導入予定の社数シェア、導入年、運用形態(オンプレミス/クラウド)、課題、ニーズを年商別や業種別などの多角的な視点から集計/分析

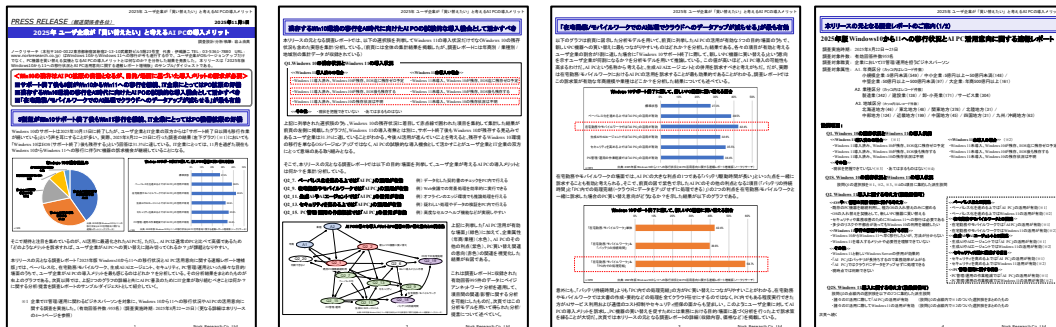
【レポート案内】 https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2025itapp_rep.pdf



2025年版 Windows 10から11への移行状況とAI PC活用意向に関する速報レポート増補版

セキュリティ対策のためのOS刷新だけでなく、AI PCのメリットを活かしたポジティブなPC環境を提案するための施策を提言

【レポート案内】 https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2025PCflash_relex.pdf

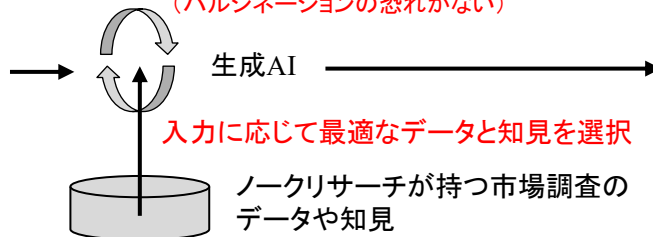


各種の関連サービス

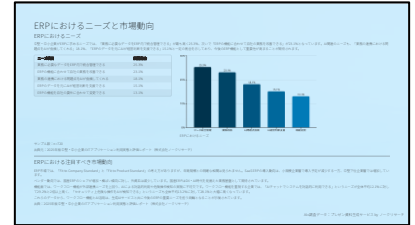
入力された企画案や販促アピールを元に、ノークリサーチの市場調査データや知見が盛り込まれたPPTX資料を自動生成

AI×市場データ:プレゼン資料生成サービス

製品/サービスの企画案や
アピールをブラウザで入力



実績のある市場調査のデータ
や知見を組み込んだプレゼン
資料を自動生成



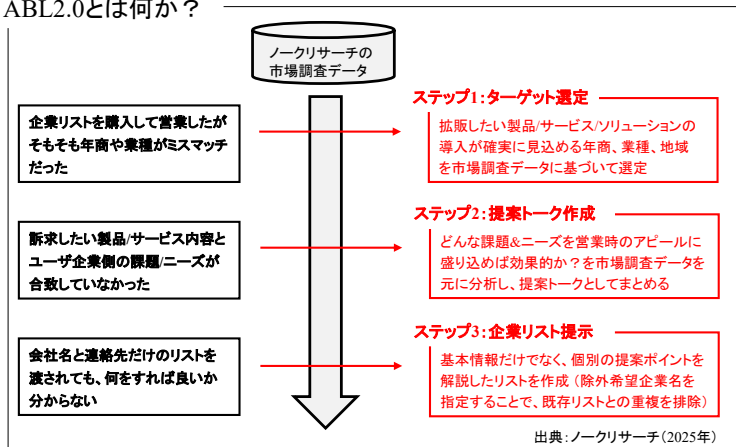
事例で分かるサービス紹介動画:
サービス詳細と無償のお試し版:

https://www.norkresearch.co.jp/result/pmc_movie_lg.mp4

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2026pmc_rel1.pdf

市場調査データを元にターゲット選定/提案トーク作成/企業リスト提示を行う『ABL2.0』

ABL2.0とは何か?



出典:ノークリサーチ(2025年)

サービス案内と実施の具体例を以下でご覧いただけます。

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2025ABL20_rel.pdf

ターゲットに沿った提案トークを含む企業リストの具体例

企業名	株式会社DEスタイル
設立年	1964年
資本金	5億円
売上高	45億円(2025年1月期)
決算月	1月
従業員数	436名(2025年2月現在)
上場有無	未上場
所在地	大阪府大阪市**区**町 1-1-1
ホームページ	https://www.destyle.**.**
メールアドレス	info@destyle.**.**
Webフォーム	https://www.destyle.**.**/contact.html
電話番号	06-****-****
業態と特徴	衣料素材の卸問屋として創業し、近年ではアパレルの企画/開発/生産/販売を一気通貫で担うビジネスを展開。試作品段階では3Dモデリングを積極的に活用するなど、DXやSDGsに対する意識が高い。 参照ページ: https://www.destyle.**.**/profile.html
提案時のポイント	「AI需要予測を用いた在庫管理ソリューション」の提案トーク解決が有効な課題: C.1: 仕入先の倒産リスク C.2: 勤や経験による管理関連性の高いニーズ: D.3: センサによる入庫記録 DXへの取り組みが進んでいるため、C.2の課題は既にクリアされており、D.3についても既に着手済みの可能性が高い。素材の調達先には海外企業も多いため、地政学的情報も含めてC.1を分析できるソリューションを提示することが有効。

本リリースの無断引用・転載を禁じます。引用・転載をご希望の場合は下記をご参照の上、担当窓口にお問い合わせください。

引用・転載のポリシー: <https://www.norkresearch.co.jp/policy/index.html>

本リリースに関するお問い合わせ

株式会社 ノークリサーチ 担当: 岩上 由高
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-13-10 武蔵野ビル5階23号室
TEL 03-5361-7880 FAX 03-5361-7881
Mail: inform@norkresearch.co.jp
Web: www.norkresearch.co.jp

NORK RESEARCH